

ぜん ぎょう じ  
善巧寺報



7 月号

月刊●善巧寺報

〒344-0032 埼玉県春日部市備後東4丁目1番17号  
TEL 048(734)7660  
榎本明覚



蓮根の収穫時期は7月から3月と長く、夏から秋にかけては「新れんこん」、秋から冬にかけては「晩秋れんこん」が収穫されます。

東京教区の食材

～ 蓮 根 ～

▼二〇一三年七月一日▲

# 定例法座

毎月 十一日

◎七月十一日(火)午後二時

～三時

於 善巧寺 法輪会館

## 「他力とは」

「他力本願」というのは親鸞聖人の浄土真宗において大切な言葉ですが、世間的にはその意味を間違つて理解され用いられている事が多く見受けられます。世間事に流されてしまいがちな私たちですので、ここは聞き損ないがないようにしたいものです。他力とは自力が全く混じっていない事を言います。

「自力というは、わが身をたのみ、わが心をたのみ、わが力をはげみ、わが様々な善根をたのみ人なり」

(『一念多念文意』)

と親鸞聖人は仰せになりました。「わが心をたのみ、わが力をはげみ」と言うと、一見ストイックで素晴らし

い事のように思えますが、実はそこには大きな落とし穴があります。いくら努力をしても方向性が誤っていれば結果は得られない、むしろ損害を被る、という落とし穴です。

住職は腹のお肉を、どげんかせんといかん(古い!)というわけで、ウォーキングを始めました。最初はウォーキングシューズを買って一日一万歩を目安に歩いていたのでが一週間を過ぎた頃、足裏が痛くなるようになりました。原因は何か? 偏平足気味だから? 靴が合わないから? いろいろ調べてみますと、歩く姿勢、足の使い方、力の抜き方、脚の上げ方等々、様々な点が間違っていた事を知りました(内股気味に静々と歩くのは、外見は良いが足には悪影響だそうです)。やみくもな努力や自分勝手な判断が却って悪影響を生み出すように、極楽浄土というこの上なく清らかで慈悲と安穩

に満ちた世界に生まれるには、全く煩惱から抜け出せないわが心をたのみとすればそれは殆ど不可能と言わねばなりません。自力を捨てて本願他力をたのみとせよと親鸞聖人はお勧め下さったのです。

「自力修行の門は、末代なれば、今の時は、出離生死の道はかないがたきあいだ、弥陀如来の本願にあいたてまつらずは、いたざらごとなり。しかるにいますでに、われら弘願の一法にあることをえたり。このゆえに、ただねがうべきは極楽浄土、ただたのみべきは弥陀如来、これによりて信心決定して念仏申すべきなり」

(『御文章』三帖四通)

自力という重荷を降ろし、仏さまのおかげでなあと報恩感謝の心が多く起これば、この娑婆世界も少しは楽に軽やかに歩んでいく事ができるのではないでしょうか。

# みほとけ会月例会

※ ZOOM ミーティング ※

開催日時は、

毎月第一木曜日、第三木曜日

午後八時開始・九時すぎ終了

参加ご希望の方は、

jetfidget@gmail.com



## ◆◆春日部だより◆◆

◎【感謝が心に与える影響について】  
マーティン・セリグマンという心理学者が実験を行っています。恩恵を与えてくれた人に感謝を伝える事が出来なかつた人を選び、半分の人は何もせず、残り半分の人には感謝の手紙を書いてもらい実際に恩人の前で読んで聞かせるというものでした。結果、感謝の手紙を書いた人たちは、幸福感が増して一か月ほどそれが続いたと言いますただし半年過ぎると元に戻りました。この実験によって、幸福感があるから感謝できるのではなく、むしろ感謝するから幸福感が増すという事が明らかになったと言えます。

七月、東京神奈川などの一部地域ではお盆を迎えます。必ず極楽浄土に参らせると堅く誓って下さる仏さま、私を育て導いて下さった先人の方々への感謝を表しましょう。

◎例年盆参詣をさせて頂いているお

宅には参詣日時を記したお手紙を同封しております。変更・休止等のご要望がございましたら、〇四八七三二四一七六六〇(善巧寺)までご連絡下さい。  
◎お寺の後を流れる古利根川は遊歩道が設けられていてウォーキングするには絶好のロケーションです。季節の草花や鳥たちにも出遇えるのも楽しい事です。



・大雨のあとのカルガモ親子・ガチョウ?ラベンダーの蜜を吸うツマグロヒョウモン(メス)